

岩手県の鍾乳洞

岩手県の鍾乳洞と地質

岩手県の東半分を占める北上山地には石灰岩が分布していて、その中に多くの鍾乳洞が形成されています。これら石灰岩の多くは石炭紀からジュラ紀(およそ3億年前から2億年前ころ)に温かい浅い海や海山の上および周辺でウミゴリやサンゴなどの死骸が堆積して、その後のプレート運動で現在の位置まで移動してきたものです。また、大船渡市や住田町付近にはより古い時代(シルル紀;およそ4億数千万年前頃)の石灰岩が分布していて、この石灰岩中にも関谷洞窟などの鍾乳洞があります。北上山地は日本でも多くの鍾乳洞がある地域であるとともに、日本で最も古い時代の石灰岩中に形成された鍾乳洞がある地域の一つです。

県内の鍾乳洞のうち、安家洞、龍泉洞・龍泉新洞、船久保鍾乳洞、滝観洞、白蓮洞(現在閉鎖中)、幽玄洞は観光洞として一般公開されていて、管理洞の内間木洞は2月の氷筍観察会の際に入洞することができます。整備・管理された鍾乳洞のほかにも数多くの鍾乳洞が報告されており、その数は現在確認されているだけでも646洞窟になります。さらに、長さが1,000mを超える鍾乳洞も15洞窟(未発表の2洞窟を含む)あり、国内最多です。

龍泉洞(岩泉町)の水晶宮(非観光ルート)でみられる鍾乳石(撮影:小向益男)



船久保洞窟(紫波町)の中央部ホール(撮影:山田 努)



滝観洞(住田町)の観光ルート最奥部にある落差29mの「天の岩戸の滝」(撮影:小向益男)



龍泉新洞(岩泉町)の研究洞(非観光ルート)でみられる鍾乳石(撮影:小向益男)

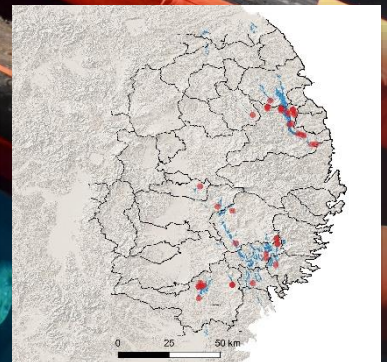
岩手県の鍾乳洞の特徴

岩手県で確認されている洞窟群の多くは、北上山地の地質構造の影響を受けて南北方向に伸びた形状をしています。しかし、龍泉洞のようにほぼ東西方向の断層沿いに伸びている鍾乳洞もあります。

日本では多くの鍾乳洞が天然記念物や史跡の指定を受けていますが、県内では安家洞と龍泉洞が国指定天然記念物に指定されています。また、内間木洞が岩手県指定天然記念物に、船久保洞窟・関谷洞窟が岩手県指定史跡に、ウサギコウモリが繁殖を行う蝙蝠穴が遠野市指定天然記念物にそれぞれ指定されています。

国内最長の24km以上の長さがある安家洞、水深100m以上の地底湖をもつ龍泉洞、国内最大規模の曲流型洞窟の滝観洞、多層構造の白蓮洞、高さ2m以上の氷筍が見られる内間木洞、考古学的に貴重な遺跡である船久保洞窟・関谷洞窟や多くの洞穴遺跡群、鍾乳石の中に挟み込まれた6,000年前の炭化物がある稲荷穴など特徴的な洞窟が多い地域です。

龍泉洞(岩泉町)の観光ルート最奥部にある第三地底湖(撮影:小向益男)



岩手県における石灰岩の分布域(青色)と主な鍾乳洞の位置(赤丸)。(ベースマップには国土地理院の基盤地図情報のデータを、石灰岩の分布は日本シームレス地質図 V2 (GSJ, AIST)を、それぞれ利用した。)

